

今から四一年前の冬。札幌冬季五輪スキージャンプの七〇級で、笠谷幸生、金野昭次、青地清二の三選手が「金銀銅」を独占した。札幌・宮の森ジャンプ競技場の表彰台に、日本人の選手三人が並んだ光景は今も脳裏に深く焼き付いている。当時、筆者は小学生。友人らと小さな手作りのジャンプ台を作っては笠谷選手たちを真似たものだ。

一九九八年の長野冬季五輪でも心を揺さぶられた。スキージャンプ団体。原田雅彦選手が一本目のジャンプを失敗し、メダルは遠のいたかと思われたが、二本目に脅威の大ジャンプで逆転の金メダルを収めた。五輪の記憶は、今も鮮明だ。当時の感動がよみがえってくる。

◇ ◇  
二〇二〇年の東京五輪開催が、九月八日、アルゼンチンのブエノスアイレスであった国際オリンピック委員会（IOC）総会で決まった。だが、心は躍らなかつた。異常とも言える光景が繰り広げられたからだ。

ジャック・ロゲIOC会長が「トウキョー」と読み上げた瞬間、大喜びする東京都の猪瀬直樹知事らの姿がテレビの映像から流れた。ガッツポーズしたり、抱き合ったりする選手たち。その横で、安倍晋三首相や森喜朗元首相も両手を挙げて大声を上げていた。

安倍首相はロシア・サンクトペテルブル

## 五輪の先にあるものは……

グで開催されていた主要二〇方国・地域（G20）首脳会議から、現地に入った。五輪招致を後押しするため、東京都の最終プレゼンテーションに加わった。

未だに収束の見通しがない東京電力福島第一原発事故。復興が進まず、仮設住宅入居を強いられる東日本大震災の被災地の人々。安倍首相は被災地の心情を逆なでするように「原発の汚染水はコントロールされている」と「虚偽」の説明を強調した。安倍首相のはしゃぎぶりを冷めた目で見ていたのは被災地の人々だけではないだろう。

かつて「名古屋五輪」を目指し、韓国ソウルに敗れた鈴木礼治元愛知県知事は報道機関に対し、東京五輪決定を喜ぶ一方で、「首相がIOC総会で演説するなんて、以前の活動では考えられなかつた」、「他国でも国ぐるみの招致という性格が強まっている。この先どうなるのか」などと感想を漏らした。

◇ ◇  
アスリートたちが集うスポーツの祭典の五輪は国の威信をかけた招致合戦となつてしまった。その先にあるものは……。テレビや新聞の報道を含め、一種、異様な雰囲気、危機感を抱かざるを得ない。

◇ ◇  
「二五年続いたデフレ、縮み志向の経済を五輪開催決定を起爆剤として払拭したい」。安倍首相の東京五輪決定後の記者会

見で、こう力説した。今後、東京には人と金が流れ込み、「五輪特需」というバブルを迎えるだろう。その恩恵は東京以外にもたらされるのだろうか。

河村たかし名古屋市長は記者会見で、「（東京五輪は）日本の総合力できまつた。東京東京といわれるときみしい。名古屋が埋没しないように。テレビを見ていると、東京の話題ばかり。名古屋が本物を追求した文化、芸術、楽しいものを作っていないと吸収される。危機感を持っている」と懸念を表明した。

一九六四年の東京五輪前後の東京都の人口を見てみたい。開催が決まつた一九五九は約九三五万人だったが、一九六四年は約一〇六四万人。その後五年後には約一一三四万人に増えた。全国に占める割合も一〇・〇九%から、一〇・九五%、一一・〇六%に上昇した。

札幌市はもつと顕著だ。一九六六年の札幌五輪決定時は約八三万人。一九七二年の五輪開催時は約一一〇万人。その五年後は約一三一万人にまで増えた。北海道に占める割合は一五・〇九%、二一・一五%、二四・〇八%と一極集中が急速に進んだ。

変質する五輪と、地域格差の拡大の懸念。二度目の東京五輪は矛盾を抱えたまま、二〇二〇年まで突っ走るのだろうか。

△洋▽